様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　２１年　４月　１日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2009
課題番号：　１８５２０５５１
研究課題名（和文）　近世ドイツにおけるコミュニケーションの歴史

研究課題名（英文）　History of Communication in Early Modern Germany

研究代表者
山本　文彦　(YAMAMOTO FUMIHIKO)
北海道大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号　３０２２２３８４

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・西洋史
キーワード：帝国郵便　領邦郵便　時間意識　空間意識　地震情報論

１．研究計画の概要

近世ドイツにおいてコミュニケーションの重要な手段となった郵便事業の実態を解明し、国制史研究の中にコミュニケーションを位置づけるとともに、当時の政治・社会構造がコミュニケーションと密接に関連していたことを明らかにすること。

２．研究の進捗状況

郵便事業については、その制度面における分析はほぼ終了した。特に帝国郵便に関しては、１６世紀末から１７世紀かけて生じた皇帝との間での権利闘争を具体的に解明し、タクシス家の私企業的な性格から帝国郵便へと変化する姿を検討した。また帝国郵便と領邦郵便の制度的な関係については、プロイセンの領邦郵便と帝国郵便の管轄権をめぐる争いを題材にして、帝国郵便と各地の領邦郵便が実際にどのように役割を分担したのかを検討した。しかしながら郵便事業の個々の具体的な状況は史料上の制約から解明は十分には進んでいない。

他方、コミュニケーションが社会に与えた影響として時間意識と空間意識の変化を検討した。郵便によって作成された郵便地図、道路地図、郵便時刻表、また郵便を使って行われた旅行の案内書を題材にして、これらの新しいコミュニケーションツールが、当時の人々の意識にどのような変化を与えたのかを検討した。ここにおいて中世的な空間および時間意識が決定的に変化する姿を明らかにすることができた。さらに、コミュニケーションが社会に与えた具体的な影響を災害情報の面で検討している。とりわけ広域に影響を与えた地震に的を絞り、地震の情報がどのように伝わり、それが当時どのような影響を与えたのかを検討している。今年度は特に１７５５年にリスボンで発生した地震（リスボン地震）を取り上げて、ドイツにいてこの地震情報が、リスボン在住の商人から伝わり、各地の週刊新聞で報道され、多くの人々の関心を集め、この当時の最もポピュラーな話題であったことが分かった。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

郵便については、当初予定していた個別の活動状況は史料上の制約で進んでいないが、コミュニケーションの歴史的意義を意識の面で分析することができたとともに、災害情報の考察を通して、情報が持っていた同時代における意義を多面的に考察することができた。

４．今後の研究の推進方策

災害情報をもう少し具体例を増やすとともに、コミュニケーション史の研究史の整理を行い、最終年度に全体をまとめることを計画している。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　１件）

①山本文彦「近世ドイツにおける郵便レガーリア」『西洋史論集』（北大西洋史）10 号、44～60 頁、2007 年、査読無し

〔図書〕（計　１件）

①山本文彦「時間意識と空間意識」阪本浩・鶴島博和・小野善彦共編『ソシアビリテの歴史的諸相』南窓社、２２９～２４５頁、２００８年